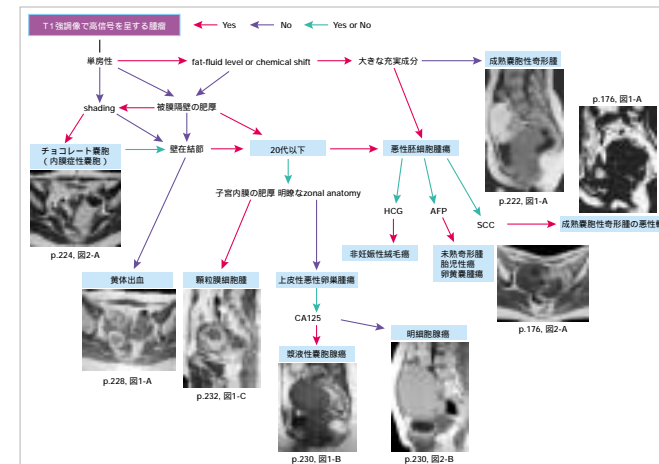


本書の構成と凡例

- ▼ 本書は、全8章、97疾患 190症例より成り立っています。
- ▼ 初学者にも読みやすいように1疾患ごとに見開きで解説しました。また、診断のポイントとなる画像には“KEY FILM”のマークを、読影上または鑑別診断上、重要な事柄が書かれているところには“ポイント”のマークをつけました。下記の凡例を参照してください。
- ▼ “疾患から始まりその所見解説の構成”にとどまらず、“所見から始まり鑑別診断と解説”の構成を取り入れてわかりやすく解説しました。所見から検索できるようにdecision treeを適宜入れてあります。右ページを参照してください。



所見からも検索できるよう「6章 女性骨盤内腫瘍の鑑別診断」にはdecision treeを入れました。

症例解説ページの構成

読影のポイントとなるKEY FILMにはKEYを付けました。

152 6. 女性骨盤内腫瘍の鑑別診断

嚢胞性腫瘍 ○— 充実性構造を伴わない

機能性嚢胞

functional cyst

▶▶ 症例1: 26歳。下腹部痛のため受診。最終月経より約25日目である。
▶▶ 症例2: 18歳。右下腹部痛のため受診。経膈超音波検査で約8cm大の右卵巣腫瘍を認め、精査となった。

▼ 症例1

図1-A T1強調横断像

図1-B T2強調横断像

図1-C 造影T1強調横断像 (脂肪抑制併用)

▼ 症例2

図2-A T2強調矢状断像

図2-B 造影T1強調矢状断像 (脂肪抑制併用)

機能性嚢胞 153

画像の読影と経過

症例1: 左卵巣には緊満感を欠く不整形の小嚢胞が認められる(図1)。嚢胞壁はT1強調画像で淡い高信号を示し、出血があったことを示唆する。月経周期や嚢胞の形態からは黄体嚢胞が破裂した可能性がある。腹水は、一連の変化に伴う生理的な状態として説明される。

症例2: 経膈超音波検査の2日後に撮影。辺縁平滑な卵巣嚢胞を認め(図2)、辺縁には正常卵巣の一部を指摘できる(-)。壁に結節や充実性構造は認めず、MRI上6.5cm大と、縮小傾向があることから経過観察となった。2週間後に超音波検査を再検したところ、嚢胞は2cm大であった。この一連の経過から機能性嚢胞と診断したが、卵巣嚢胞が考えられる。

機能性嚢胞の一般的な知識

性成熟期における正常卵巣では、卵胞発育 排卵 黄体形成という周期的変化が繰り返されている。機能性嚢胞とは、この過程で認められる嚢胞の総称である。貯留嚢胞であり、単房性で充実性部分や隔壁構造は認められない。

[卵巣嚢胞(solitary follicle cyst)] 卵巣嚢胞は概ね3cmまでの大きさで、時に8cm程度まで大きくなることがある。壁は比較的薄く、その内層は顆粒膜細胞、外層は内茨膜細胞よりなる。生殖期年齢でよく見られるが、初経ないし閉経前後や、小児、胎児においても認められる。

[黄体嚢胞(corpus luteum cyst)] 黄体は妊娠が成立しない場合、経時的に消退するが、液体や血液が貯留し嚢胞性変化を来すと黄体嚢胞となる。壁はやや厚く、破裂により腹痛、血性腹水を生じることがある(p.264「卵巣出血」参照)。正常女性でも見られるが、抗凝固療法中の発症が知られている。

鑑別診断のポイント

機能性嚢胞は通常経過観察されることが多いため、画像と組織像を対比することが難しい。機能性嚢胞のおおの診断する臨床的意義は低く、卵巣腫瘍との鑑別が最も重要となる。一般的に、性成熟期女性の卵巣に単房性嚢胞を見た場合、3cm以下のものは病的と難しい。私見では、5cm程度の大きさまでを目安に、壁が薄く、充実性構造や隔壁がないことを確認できるものでは、機能性嚢胞を第一に鑑別に挙げて婦人科での経過観察を勧めている。機能性嚢胞であれば2か月を目安に消退するのが通常である。したがって消退しない場合には、傍卵巣嚢胞、卵管留水症、漿液性嚢胞腺腫などの卵巣腫瘍、などを考慮していくこととなる。

NOTE 正常卵胞の発育過程

参考文献

- 富樫かおり: 卵巣腫瘍: 婦人科疾患のMRI診断. 医学書院, p.188-228, 1990.
- Clement PB: Nonneoplastic lesions of the ovary. In Kurman RJ(ed) Blaustein's Pathology of the female genital tract, 5th ed. Springer, New York, p.675-727, 2002.

左ページの症例写真の読影についての解説とその後の経過・最終診断も記載されています。◀が目印です。

当該疾患に関する一般的な知識を解説。

画像所見や鑑別診断のポイントを丁寧に解説。🔍が目印です。

知っておくべき知識は囲み記事NOTEで簡潔に解説。

特に参考にすべき文献を挙げました。